

秘境「重茂半島太平洋岸」でエコツーリズム

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名: 重茂半島の海と陸を経由するエコツアー・コースの開発

研究代表者: 総合政策学部 教授 平塚 明 課題提案者: 野崎 拓司 (野崎産業)

研究メンバー: 管 信利 (AEA)

技術キーワード: エコツーリズム、環境資源、景観

▼研究の背景・目標

- 重茂半島にエコツーリストを呼び込むために、海・陸のコースを開発している。
- 従来、とくに太平洋岸については未開拓であった。
- 陸路は環境省「みちのく潮風トレイル」と一部重複しながら独自コースを設定し、海路と接続する。

▼研究の方法

- リアスハーバー宮古→白浜→閉伊崎→鵜磯→鮎ヶ崎を航行し、ドローンなどで撮影、調査した。

▼研究の成果

- 各地点の特徴を選び出した。
- ①白浜漁港 花崗閃緑岩のマサ土化による白い砂浜。
- ②～⑤ デイサイト・流紋岩類が風波の浸食を受けて海蝕崖や洞門などの奇観を呈している。地質帯を同じくする浄土ヶ浜と鵜磯浜は礫浜である。
- 重茂半島では様々の境界が重なっている。三陸北部の海成段丘と南部のリアス海岸の両方の地形を見ることができる、景観の多様性に富んだ場所である。
- 断崖地と藻場(ガラモ場)のつながりなど、地形と生物の関係も見られる。

▼今後の展開

- かつて築地と白浜を結び子どもたちを運んでいた定期巡航船、閉伊崎黒崎神社から御輿を載せて各港を回る船など、地域の記憶や歴史と重なる海の道を開発する。

- モニターが参加する海・陸のツアーを実施する。
- ツーリストが休憩できる場所を鵜磯に設ける。
- 地元の重茂レンジャー(過去の地域協働研究で養成)がツアーのガイドを行う。

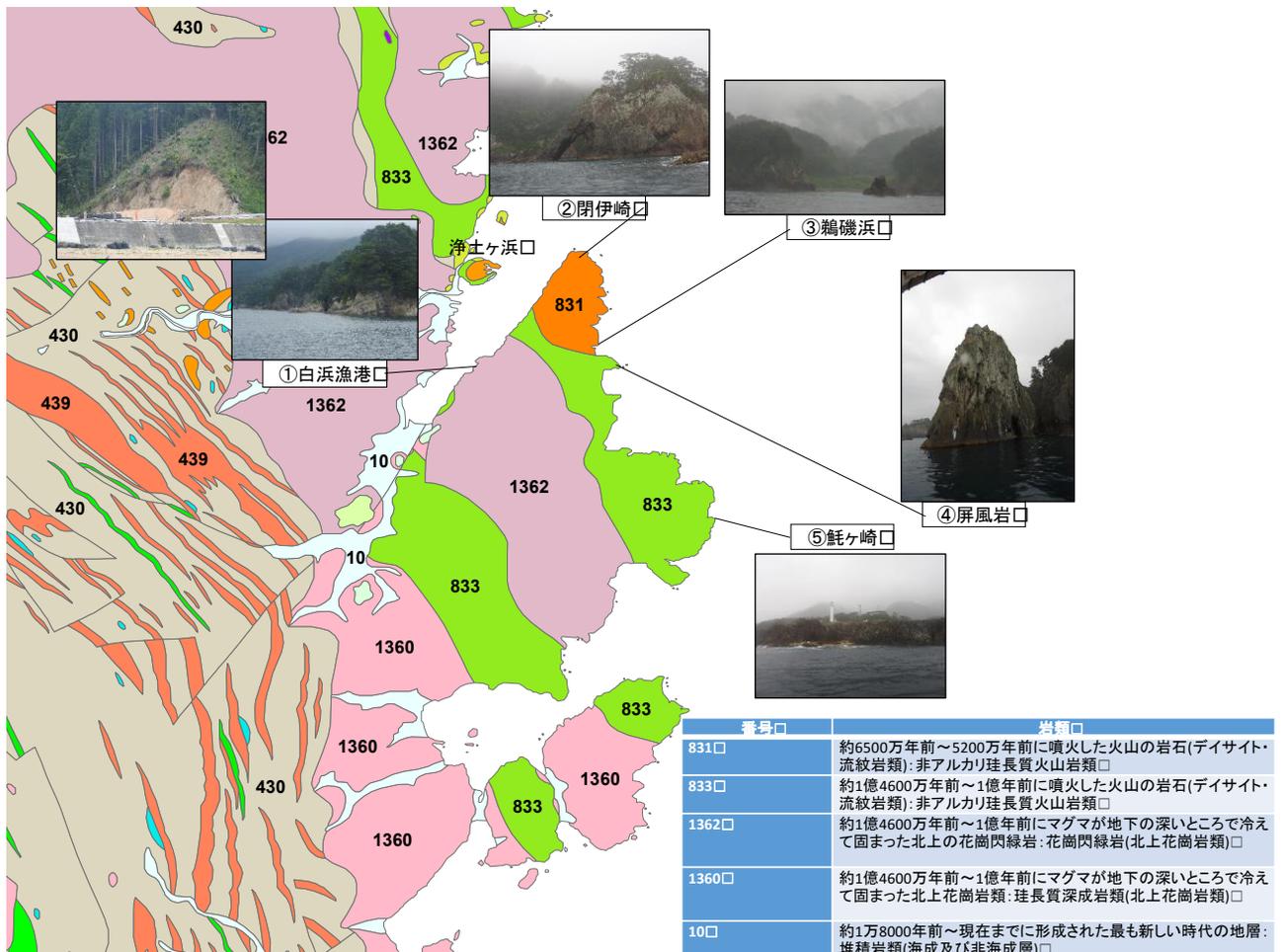


図 重茂半島の地質・地形・景観資源 (産総研地質調査総合センター 20万分の1日本シームレス地質図を一部改変)